

レベル

1

うるさい

この や
お好み焼き



エミールくんは大阪^{おおさか}に来^きました。

今日^{きょう}ははじめてこの^{この}や^やを^た食べ^いに行^いきます。



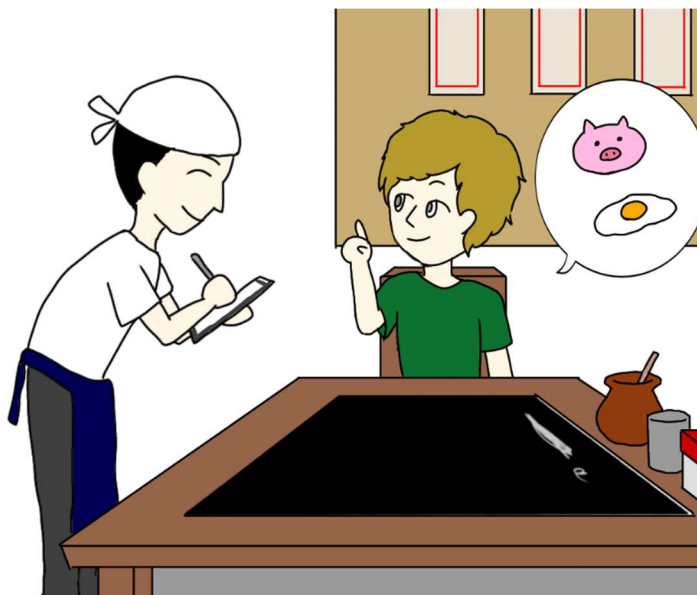
「いらっしやい！」

この や いちまい ねが
「お好み焼き 1枚お願いします！」

ぶたたま
豚玉で！」

「はい、^{ぶたたま}豚玉いっちょう！」

ぶたたま ぶたにく
※豚玉：豚肉とたまご



「お待たせしました。豚玉です。」

「おいしそう！写真、写真！」



「いただきます！」

「ちょっと待って！」

だれかの声がします。

「ん？だれの声？」

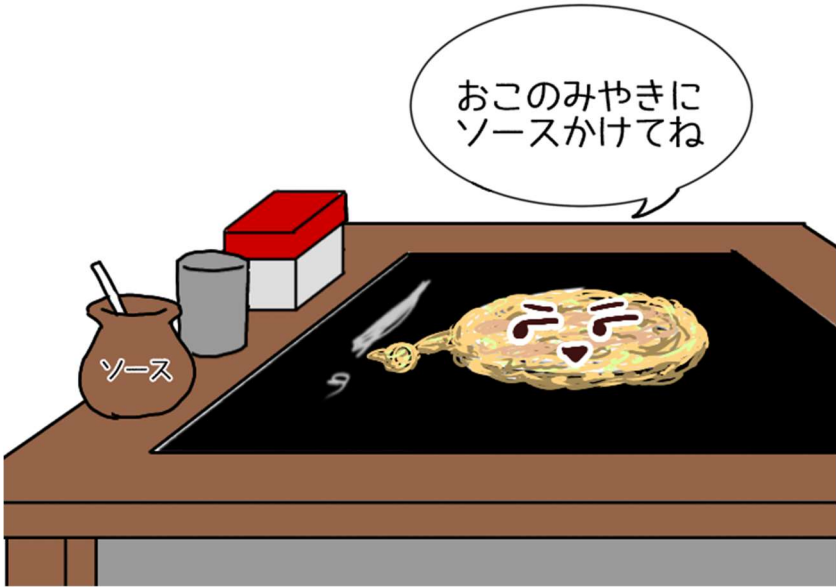


(おれやで：おれ(わたし)だよ)

「え、^{この}お好み^や焼きがしゃべってる!？」

「そうそう。でも、これはまだ^{この}お好み
^や焼きちゃうで(まだ^{この}お好み^や焼きじゃないです)。」

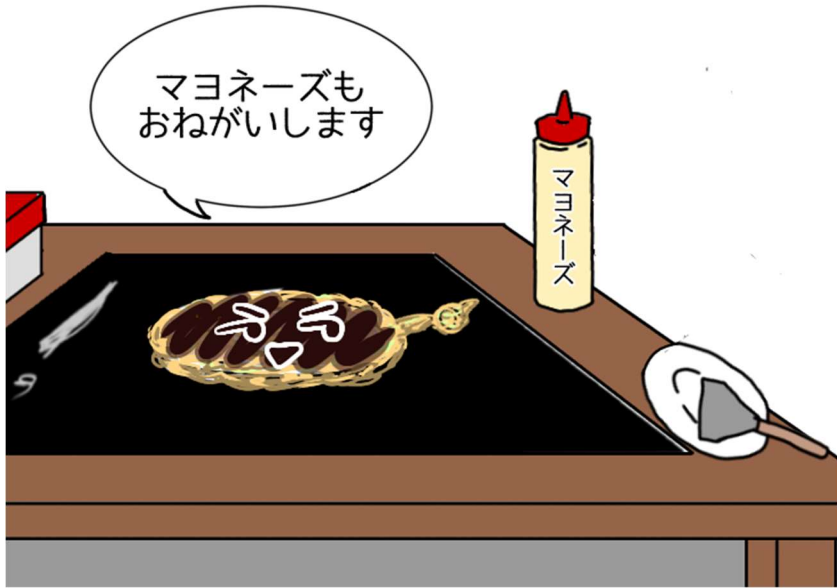
「え？まだ？」



「ああっ、ソースですね。はい、かけ
ます。じゃあ、写真しゃしんとります。」

「ちょっと待まって、まだまだ！」

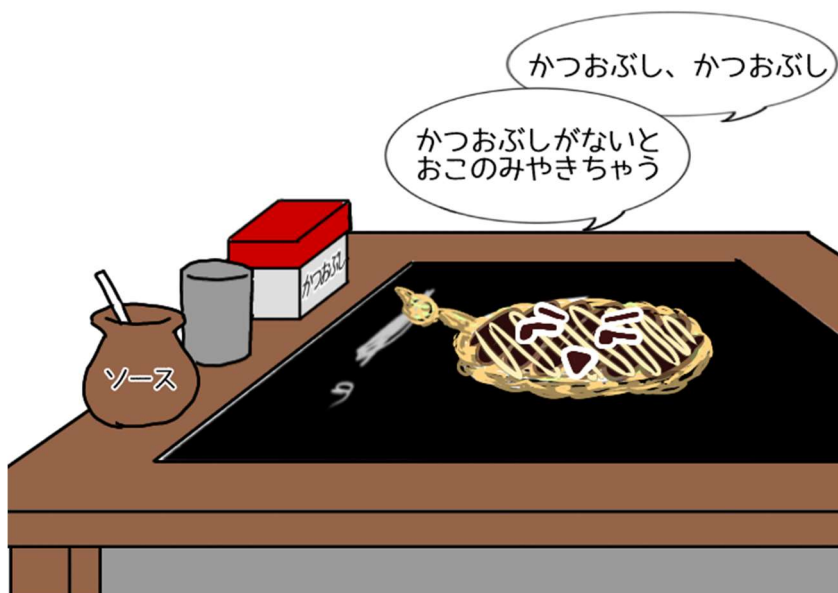
「え？まだなの？」



「あっ、はい。マヨネーズもですか。
はい、かけます。じゃあ、^{しゃしん}写真とります。」

「ああああ。まだです、まだです。まだやがな（まだですよ）。」

「ええー。まだですか。早く^{はや}食^たべたい。」



(おこのみやきちゃう：お好み焼^{この}き^やじゃないです)



「これでよし。じゃあ、^{しゃしん}写真とりますよ！」

「まだ！あとちょっと！」

「ええ～？^{はや}早く^た食べたい～」

「わかった、わかった。」

じゃあ、^{あお}青のりはちょっと！ちょっと
だけ！」





「うわあ、おいしい～！でも、もっと
あお青のりがほしい！」

エミールくんは、たくさんたくさん^{あお}青
のりをかけました。

「うん、とてもおいしい！」

「ごちそうさまー！」



(ついてんで：付^ついていますよ)

この や うるさいお好み焼き

2024年9月1日発行

編著：谷口萌子

挿絵：磯山暁子

監修：MCJP ぼくよむ文庫制作チーム



国際交流基金パリ日本文化会館日本語事業部